

< 特別寄稿 >

長崎国際大学薬学部
正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介していただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

長崎国際大学薬学部 正山征洋先生

第3回

カラバルマメ

マメ科に属するカラバルマメで学名が*Physostigma venenosum*です。西アフリカに自生し、又栽培される蔓性の低木です。



画の下に描かれている黒い種子にフィソスチグミンと言うアルカロイドを含有しています。

フィソスチグミンは眼圧を下げる作用が有り、緑内障治療薬として用いられていましたが現在は使用されることは無く、フィソスチグミンをモデルとして合成された医薬品が使われています。

フィソスチグミンは抗コリンエステラーゼ作用が強いことから認知症の治療薬としての開発が考えられていますが、未だ開発には至っていません。

本画は1890年代にカラーにより描かれたものです。